

事務事業評価表 平成22年度

政策 豊かさ創造性を育む生涯学習環境の充実  
 施策 子どもの可能性を伸ばす教育の充実  
 基本事業 教育内容の充実

事業名 **小学生英会話学習活動支援事業**

[0625]

部名	教育部	事業開始年度	平成14年度	実施計画事業認定	対象
課名	学校教育支援室 学校教育課	事業終了年度	- 年度	会計区分	一般会計

事務事業の目的と成果	
対象	<p>(誰、何に対して事業を行うのか)</p> <p>市内小学校児童</p>
意図	<p>(この事業によって対象をどのような状態にしたいのか)</p> <p>英語に慣れ親しむことで、国際化等に対応できる子どもたちを育成する。</p>
手段	<p>(事務事業の内容、やり方、手段)</p> <p>小学校において、英語に触れたり外国の生活や文化に親しむなど、国際化に対応した授業を支援するため、英会話学習を行う学校へ外国人講師の派遣を行う</p>

事業量・コスト指標の推移						
区分		単位	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度当初
対象指標1	小学校児童数	人	7,090	6,929	6,750	6,525
対象指標2						
活動指標1	英会話学習の授業を受けた児童数	人	6,945	6,766	4,977	6,525
活動指標2	英会話学習の授業時数	時数	2,250	2,463	2,896	2,995
成果指標1	英会話学習を楽しいと感じた児童の割合	%	97.4	99	95	95
成果指標2						
単位コスト指標						
事業費計 (A)		千円	10,892	10,470	11,933	11,958
正職員人件費 (B)		千円	2,512	2,507	2,489	2,498
<b>総事業費 (A) + (B)</b>		<b>千円</b>	<b>13,404</b>	<b>12,977</b>	<b>14,422</b>	<b>14,456</b>

費用内訳	
21年度	報酬 11,933千円

## 事業を取り巻く環境変化

事業開始背景	社会の国際化と学習指導要領の改訂	事業を取り巻く環境変化	国際化が進展する中で、小学校においても国際理解教育の一環として英会話授業が行われ、平成23年度からは小学校5・6年生において必修化される予定である。
--------	------------------	-------------	--

## 21年度の実績による事業課の評価（7月時点）

(1)税金を使って達成する目的（対象と意図）ですか？市の役割や守備範囲にあった目的ですか？

義務的事務事業

妥当である

妥当性が低い

理由  
・  
根拠は？

国際化等に対応できる子どもたちを育成することは妥当である。

(2)上位の基本事業への貢献度は大きいですか？

貢献度大きい

貢献度ふつう

貢献度小さい

基礎的事務事業

理由  
・  
根拠は？

時代に即した教育に欠かすことができない一つの領域であることから、上位の基本事業への貢献度は大きいです。

(3)計画どおりに成果はあがっていますか？計画どおりに成果がでていない理由、でていない理由は何ですか？

あがっている

どちらかといえばあがっている

あがらない

理由  
・  
根拠は？

平成19年度より8年生以上の児童に配布した江別市教育委員会作成のオリジナルテキストに続き、平成21年度からは5・6年生に配布された文部科学省作成のテキスト「英語ノート」を使用し、平成23年度からの5・6年生英語必修化に向けた準備を行っている。

(4)成果が向上する余地（可能性）は、ありますか？その理由は何ですか？

成果向上余地 大

成果向上余地 中

成果向上余地 小・なし

理由  
・  
根拠は？

非常勤講師の資質・指導力向上により、成果は向上します。

(5)現状の成果を落とさずにコスト（予算＋所要時間）を削減する新たな方法はありませんか？（受益者負担含む）

ある

ない

理由  
・  
根拠は？

平成23年度より5・6年生における週35時間の小学校英語の必修化にむけて、ネイティブスピーカーとのチームティーチングでの授業は必須であり、講師の派遣時数を削減することは難しい。